

2023 栄光への軌跡

(^{むらさき}紫 ^{きょう}香 ^ぶ部 ^に日 ^き記)

第五部

目次

インターハイ優勝祝賀会 & 新幹部発表・・・ 2p

特別国民体育大会 岡山県選手団壮行式・・・ 7p

鹿児島国体・・・ 9p

インターハイ優勝祝賀会&新幹部発表

8月22日



キャプテン 成島乃惟



副キャプテン
中川優人



副キャプテン&クルー長
河合星芽



副キャプテン
内海陽飛



主務
竹藤綾真



夏休み 夏休み

草刈りにオープンスクール

安仁神社へのお礼と忙し

北海道インターハイの岡山勢入賞者

陸上	男子	400m	⑥谷野 佑成(岡山工)
		5000m	①サムエル・キバティ(倉敷)
女子	走り高跳び	3000m障害	②黒田 然(光南)
		やり投げ	⑤周世原春玖(高大付)
水泳	男子	八種競技	②伊丹 理人(就実)
		1500m	③河原 怜音(高大付)
女子	100m障害	③ドルーリー朱瑛里(津山)	
		400m障害	④木梨 光菜(倉敷中央)
男子	400mリレー	⑦石原 涼華(//)	
		1600mリレー	③倉敷中央
女子	ハンマー投げ	② //	
		学校対抗	⑧草野 沙月(光南)
卓球	男子	団体総合	④倉敷中央
		個人総合	④関 西
女子	団体総合	⑥脇原 和志(関西)	
		個人種目別決勝	① //
バレーボール	男子	団体	①井 原
		100m平泳ぎ	②中村 美羽(古城池)
女子	200m平泳ぎ	⑧ //	
		200mバタフライ	⑧小島 琴葉(就実)
卓球	男子	水球	⑤関 西
		女子	⑤就 実
女子	卓球	男子	⑤関 西
		女子	個人シングルス
ボクシング	男子	ウェルター級	⑤小野 湧太(関西)
		96kg級 S⑦	岡田 蓮(水島工)
女子	102kg級 S③J③T③	102kg級 S③J③T③	小山 峻大(岡山工)
		102kg級 S③J③T③	塩飽 隼斗(笠岡工)
男子	102kg級 S⑦	102kg級 S⑦	山名 創太(水島工)
		45kg級 S⑤J⑤T⑤	樽本 琉花(倉敷商)
女子	76kg級 S④J④T④	76kg級 S④J④T④	大嶋 紗弥(玉野)
		登山	男子
女子	女子	女子	②就 実
		男子	③作陽学園
柔道	男子	90kg級	⑤小坂 歩生(関西)
		100kg超級	⑤工藤 瑠希(作陽学園)
女子	52kg級	52kg級	③武藤 羽菜(創志学園)
		78kg超級	③浦井菜々子(//)
男子	78kg超級	78kg超級	⑤甲斐 天使(//)
		テニス	男子
女子	個人ダブルス	個人ダブルス	⑤遊川大和・木村一翔(関西)
		個人ダブルス	⑤岸本聖奈・中島莉良(学芸館)
レスリング	男子	125kg級	⑤三宅 茂(山陽)
ローイング	男子	かじ付キル	①関 西
		4人スカル	④柏野 泰智(関西)
自転車	男子	スクラッチ	③海津 星斗(水島工)
		ケイリン	③豊田 駿斗(岡山工)
空手	女子	個人形	⑤杉本 一花(山陽)
		団体	③天 城
アーチェリー	女子	個人	⑤林 若奈(天城)

※丸数字は順位。重量挙げのSはスナッチ、Jはジャーク、Tはトータル
 が5位。競泳女子平泳ぎでは中村美羽(古城池)が2種目入賞を飾った。中国インターハイに向け、県高体連は柔道やハンドボールなど岡山開催の7競技を中心に各競技団体の中体連と連携した強化事業を本年度から本格化している。今年の入賞数は中国地方では2位島根の32を引き離しトップだったものの、高取俊明理事長は「ここ3年は横ばいになっており、ここから右肩上がりとなるよう全競技一丸で取り組んでいく」と強調する。

北海道インターハイ

北海道で開催された全国高校総体インターハイ、21日閉幕)で岡山県勢の入賞(8位以内)は58を数え、2021年(57)、22年(56)に続き目標の「55」をクリアした。出場29競技中15競技で入賞を果たし、陸上と重量挙げがけん引役となった。(橋本直樹)

陸上の入賞は13。男子5 小山峻大(岡山工)ら男女000mをサムエル・キバティ(倉敷)が制したのを2競技で全体の半数近くは、やり投げの伊丹理人を主役とした。柔道も入賞6人と(就実)と3000m障害の黒田然(光南)が2位、女子400mリレーの倉敷中央が3位と躍進した。お家芸の重量挙げはスナッチ、ジャーク、トータルすべて3位の男子102kg級

表彰台(3位以内)は前ローイング男子かじ付き4人スカルを2連覇した関西の選手ら7月31日、網走湖畔

岡山勢入賞58 目標クリア



重量挙げ 陸上けん引 優勝5、表彰台20

インターハイでの岡山勢の入賞数の推移は1増の5で、全て男子だった。陸上のキバティのほか、ローイングかじ付き4人スカルは関西が2連覇を達成。新体操団体は井原、体操個人種目別の鉄棒は脇原和志(関西)が頂点に立ち、登山の操山は男女を通じて県勢初の日本一に輝いた。



入賞が個人の44に対し、14と伸び悩んだ団体は、上位進出が期待された有力チームが苦戦した。ハンドボール男子は全国高校選抜8強の総社が初戦の2回戦で準優勝に敗れ、ソフトテニス女子で全国高校選抜3位の就実、全国高校選手権で初の栄冠を手にしたサッカー男子の学芸館も入賞圏に届かなかった。

明るい材料は、中国5県で実施される2025年インターハイの主力世代となる1年生の活躍だ。陸上は女子1500mのドルーリー朱瑛里(津山)が3位表彰台に立ち、卓球女子個人シングルスは面手凜(山陽学園)が5位。競泳女子平泳ぎでは中村美羽(古城池)が2種目入賞を飾った。

インターハイの余韻はまだまだ続く

踊る大漕査線@網走 努力は運を支配する

関西高等学校

森川 幸夫

負けない事・投げ出さない事・逃げ出さない事・信じ抜く事
駄目になりそうな時 それが一番大事
負けない事・投げ出さない事・逃げ出さない事・信じ抜く事
涙見せてもいいよ それを忘れなければ

これは、大事 MAN ブラザーズの曲『それが大事』の一部です。決勝レース前、これを聴きながら試合会場に向かいました。その時の選手たちにタイムリーな曲で、彼らの心に火を点けたのかもしれませんが。

保護者・OBをはじめ関西サポーターの皆様、熱き応援本当にありがとうございました。沢山の方々のおかげで『踊る大漕査線@網走』が完結しました。無事「日本一」を確保しました。一昨年の福井大会（ダブルスカル優勝）、昨年の愛媛大会（クォドルプル優勝）に続き、3年連続の日本一を達成しました。漕査協力、心より感謝申し上げます。振り返れば、これらの優勝は全て『運』がついていたのかもしれませんが。いや、必然だったのかもしれませんが。選手たちの勝利への執念が運を引き寄せたのかもしれませんが。では、この運とは何か？

運命は変えられるか？運は自分で切り開けるものなのか？私の答えは「YES」です。「心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。」これは私の好きな言葉です。

「自分は運が悪い」「自分には運がなかった」こうした言葉をよく耳にしますが（私も時々言っているのでは?!）、本当にそうなのだろうか？私は、誰もが運を持っていると思っています。しかし、その運に「プラスアルファ」を重ねなければ、運は強くないし、運命を変えることなどできません。

運の強さとは、運そのものの強弱ではなく、運を引き寄せるために努力を続けたかどうかで変わるものです。そうして努力することで強くしてきた運が重なることによって、運命もまた変わってくるとものと考えています。そうやって私たちは今回優勝の栄を勝ち得たと思います。

やっぱり・・・『努力は運を支配する』

まだ見ぬ世界へ “網走の一番早い風”

関西高等学校

田川大智

私達は2023年網走湖インターハイ団体種目の舵手付きクォドルプルで優勝し、2022年に続き2連覇を達成することが出来ました。本当に応援ありがとうございました。まず思い出すのは2年生で挑んだ2022年の玉川湖インターハイ、私はダブルスカルで出場しました。目標は優勝でしたが、決勝に行けず5位という結果でした。チームメイトの舵手付きクォドルプルは、目の前で優勝し、雄叫びを上げガッツポーズをしていました。そのレースを目の前で見て感動し、当然チームの勝利に嬉しさもありましたが、やはり自分

にとっては羨ましく、悔しさの方が大きく 100%喜べなかったのも事実です。「来年の北海道インターハイは自分たちが必ず優勝してみせる！そして先輩から受け継いだバトンで必ず2連覇を成し遂げ拳を突き上げてやる！」と決意したことを今でも覚えています。

先輩たちが引退し、私が主将となり、新チームが始動しましたが、チームがまとまらず、トラブルも多く発生してしまいました。森川先生からも「お前が作ったチームは史上最低なチームじゃ！」と言われ、主将として何度も苦しみ悩みました。チームを率いるには、自分が先頭に立って進むしかない、行動や結果で見せていくしかない、と思うようになりました。

そしてクルー間でコミュニケーションをとり、ミーティングでは遠慮せず言いたいことを言い合えるようになりました。最初は険悪なムードもありましたが少しずつチームがまとまってきました。何より日頃の練習中の会話でも、クルーミーティングでも「日本一」というキーワードが全員の口から頻繁に出るようになりました。そこからチームの雰囲気が変わっていきました。何よりインターハイで優勝する為、今をどう過ごすか？今日の練習をどうするか？をよく考える様になり、家に帰っても筋トレ、食トレ等、日々最善を尽くしていきました。

そして北海道インターハイ。私たちは予選、準々決勝を1位で勝ち上がることが出来ました。準決勝・決勝前日の夜、調子にのった自分は、森川先生からひどく叱責され、ここで冷静になれました。就寝前、色々なことを考えました。去年のインターハイで決意したこと。家族・森川先生・コーチ、支えて下さった多くの方へ感謝を感動で返したいこと。共に苦しい練習に耐え、共に成長できた仲間への感謝。また、私は感情表現が苦手なので今までゴールして大きくガッツポーズをしたことがありませんでした。しかし「決勝をトップでゴールしたら拳を突き上げてガッツポーズを絶対してやる！明日は絶対に負けない！レースは俺のものだ！」などと考えながらニヤニヤして寝ました。

迎えた最終日。準決勝では2位で決勝へ進むこととなりました。新チームになってから2位で Finish したことは3月の全国選抜ボート大会の決勝でしかなく、準決勝2位という結果によるクルーの落胆を心配しましたが、クルー全員が順位に落胆することなく、それどころか「これはいけるぞ」とクルー全員で明るく、さらに闘志を燃やし続けていました。

決勝前、レース前のミーティングでは森川先生から「どんな結果でもええ。思い切り楽しんでこい。笑ってこい。ただ悔いだけは残すな。」と言われリラックスして出艇しました。自分達のやってきたことを集中してやろうと声を掛け合いスタート地点へ向かいました。スタートして少し他艇に出られてしまいましたが、心の余裕と自信があったので、焦ることなく自分達のスピードに集中していきました。少しずつ差を詰め550m付近でついにトップ。コックスのスパートの指示で全員がさらにギアを上げ無我夢中で漕ぎ続けました。ライバルたちの追い上げもすごかったのですが、一番最初にゴールブザーを鳴らしたのは関西クルー。ついに網走の一番早い風になったのです。その瞬間、自然と今までしたことがない拳を突き上げ大きくガッツポーズしている自分がいました。私はあまりの嬉しさに涙があふれ出ました。チームタイトルであった『まだ見ぬ世界へ勇気を持って飛び込め！』を成し得ることができたのです。レース後、クルーと握手を交わし、みんなの嬉しそう顔を見て、主将としてほっとしたと同時に責任を果たせた気がしました。何より一番嬉しかったことは、来る日も来る日も熱心にご指導してくださいました森川先生、コーチ、そしていつも近くで支え、応援してくれた両親に恩返しが出来たことです。毎日きつい練習を共にしてきたチームメイトや沢山の支えて頂いた方々のおかげで日本一が獲れ

たことに本当に感謝の気持ちで一杯です。

最後に、今後も感謝と謙虚を忘れずに、関西高校の校訓である『敢為の精神』で行動していきたいと思います。それは・・・関西ですから！

新しい自分に出会えた瞬間

関西高等学校

岡本康佑

私たち関西高校は、インターハイ団体種目の舵手付きクォドルプルで昨年に続き二連覇を達成することができました。

私は高校に入学してすぐにボートと出会いました。先輩から誘われ、なんとなく入ったボート部。私は小柄で細身だったのでコックスを任されました。コックスといえば艇の司令塔である重要なポジション。最初は楽しかったのですが、練習の辛さにだんだんやる気も興味もなくなっていました。しかし、仲間に支えられ、何とかしがみつकिながら、私にとって初の全国レベルの大会、全国高校選抜ボート大会に出場しました。結果は2位、準優勝でしたが、悔しさ以上にボートの本当の楽しさ・面白さに気づくことができました。

そこからは高校ボートの頂点『日本一』だけを目指して日々努力していきました。そして迎えた北海道インターハイ。私たちは、予選・準々決勝と順調に駒を進めました。準決勝は2位で決勝戦進出。2位ではありましたが、私達は落ち込むことなく「これはいけるぞ！」と互いに鼓舞しあいました。決勝、出艇前に先生が「着順はどうでもええ。結果は後から着いてくるから思いきり楽しんでこい。笑っていこう！」と言ってくれました。その言葉のおかげで、私達はレースアップから歌って笑ってリラックスした状態でスタート地点に着くことができました。「2 minutes」と審判の声が聞こえると一気に緊張感が走りました。12:30 Attention Go! スタートしてから他艇に少し遅れをとりましたが、私は「冷静にいこう！」と声をかけました。レース中盤、他艇のスピードが一瞬落ちたのを見て、私はスパートをかけました。そこから最後まで「いける！勝てるぞ！」と必死に声を張り上げました。最初にゴールブザーを鳴らしたのは関西クルー。ブザーが鳴った瞬間、私は思わず立ち上がって、応援席に向かってガッツポーズをしていました。全国制覇の瞬間でした。同時に新しい自分に出会えた瞬間でもありました。

今回の結果があるのは毎日指導して下さった先生、コーチ、一緒に頑張ってきた仲間達、保護者の皆さん、支えてくれた多くの方々のおかげです。この感謝の気持ちを忘れずにさらなる高みを目指して謙虚に頑張っていきます。目指すは国体、まだ見ぬ世界へ！熱き感動を求めて！！

夢叶えば道は拓ける



特別国民体育大会 岡山県選手団壮行式

9月11日に行われた。ジャージも毎年少しずつ変わって行くねえ。思い出したわ!!息子さんの時、貰ったユニホームそのままほっといた子が数人いた。うちの子もです。当日、着てみたら裾が長すぎて、慌ててハサミで切って捲ったそうです。帰って来てから裾を纏ろうとしたら、切りすぎてて・・・。私も観に行っただなあ。観客席に陣取って皆で観ましたよ。インハイ優勝してないから誰も決意表明してなかったけどね。



いよいよ国体が始まるがその前に
全日本大学選手権(インカレ)

簡単に書いておきます。掲示板に先生が載せてくれていたので。

『小橋がエイトで優勝、坂井がダブルスカルで準優勝、八重樫が舵付きフォアで3位入賞、そして小川(仙台大)がクォドルプルで3位入賞でした。』



男子エイト
小橋(高)出場
日大が優勝
全日本大学ローイング
ロイングの全日本大学選手権は6、10日、埼玉県戸田市の戸田コース(2000m)であり、男子エイトで関西高出の小橋冬唯がメンバー入りした日大が5分57秒35で優勝した。他の主な岡山勢では、男子ダブルスカルで坂井洋友(日大、関西高出)、女子かじなしペアで荒川空美(明大、岡山東商高出)の組がそれぞれ準優勝。男子かじ付きフォアは関西高OBの八重樫悠らの日大が3位に入った。



こう言うのはひがみでしかないが、日大いつまでも強いよな。仙台以外の大学はどうした?!!
日大ラグビーは大変そうやけど、ローイングは健在やね。

さて、いよいよ!! いよいよ鹿児島に乗り込みます。

先生は鹿児島入りのルートを前日まで迷っていました。北海道の時の様に長い船旅にすると公式練習1日目に間に合わないし、全工程をバスにすれば11時間の強行軍。体力的に絶対自信が無い。・・・還暦ってまだまだ若いと言われても、無理できない年なんですわ。で、どうするのかなあ??とあってたらこんなルート辿ってました。



今朝7時に関西高校出発。山陽道→瀬戸大橋→松山道を通って愛媛県の佐田岬の三崎港へ。(約4時間半)そこから国道九四フェリーに乗船し、大分県の佐賀関へ。(乗船時間約70分)そして大分→宮崎と東九州道を通って19時半頃鹿児島県鹿屋市のホテル到着。

それでも、運転疲れは次の日も続くのでした。
福田君、はよう免許取ったれや!! ジイジが倒れちゃうよ!!

燃ゆる感動 かがしま国体

特別国民体育大会 熱い鼓動 風は南から 2023

鹿児島は暑い。今年は本当に何処へ行ってもお天気に恵まれている。恵まれ過ぎてまるで修造がついて回ってるんじゃないかと思うくらい熱い。関西の掲示板も岡山出発前から熱い投稿が保護者からどんどん発信されている。もうね、何書いてるんか分かんよ。内輪ネタ過ぎて。それはグループラインでやり取りしてって感じでヒートアップしてますね。おまけに阪神が ARE しちゃったから先生もハッチャケちゃって、この勢いで関西も ARE しちゃうかも～(笑) 兎に角、田川母!! 落ち着いておくれ～(笑)

9月21日(木)予選

男子シングルスカル

B組	1. 3分39秒09 QA 柏野泰智 (岡山,岡山選抜) 2. 3分43秒76 QA 橋爪一樹 (神奈川,神奈川選抜) 3. 3分45秒94 QA 川口真巧 (長崎,長崎県選抜) 4. 3分49秒80 QB 水谷隼太 (大阪,大阪選抜) 5. 3分55秒68 QB 藤野漣飛 (北海道,函館水産高)
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

LIVE 見てるとね、しっかり解説してるから分かりやすくて助かります。スタートで抜け出し直ぐに1艇身差つけて500mで既に2艇身差。更にどんどん水を開けて圧巻のレースでした。予選トップタイムで準決勝に進んだ。

男子ダブルスカル

A組	1. 3分25秒96 QA 千葉(千葉県選抜) 篠塚 堀越 2. 3分28秒18 QA 岡山(岡山選抜) 成島 富谷 3. 3分29秒27 QA 静岡(静岡県選抜) 廣瀬 磯 4. 3分34秒61 QB 大阪(大阪選抜) 渡部 森本 5. 3分45秒71 QB 福岡(八幡工高) 山内 古城
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

敗者復活に回らずに済んで良かった。



男子クォドルプル

A 組	<p>1. 3分8秒51 QA 岡山 (岡山選抜) 岡本 田川 石井(大) 河合 石井(晴)</p> <p>2. 3分9秒62 QA 福井 (福井選抜) 寺田 中田 石田 天渡 岡本</p> <p>3. 3分17秒29 QA 岐阜 (岐阜選抜) 岩井 成瀬 加藤 村山 井戸</p> <p>4. 3分19秒53 QB 長崎 (長崎県選抜) 井手 梶崎 宮崎 西村 平地</p> <p>5. 3分24秒16 QB 青森 (青森県選抜) 高田 大澤 浜道 川端 中島</p>
-----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

途中までは1艇身差をつけていたのだが、終盤福井が追い上げてきた。クォドルプルもトップタイムだったよ。なんだかワクワクしてきたね。

森川先生のお言葉

本日予選。結果は周知のとおり、シングル・ダブル・クォド共に予選通過です。熱き応援、ありがとうございました。出発前から会場に着くまでの間、雨で心配しましたが、何とか雨も止んでよかったです。

レース前に選手たちに言ったことは一言・・・。

やってきた事をやろう！レースは苦しい。しかし、苦しいと思ったらあかん！苦しいよりも楽しもう！苦しさを楽しもうや！だからスマイルでいくでえ～～！そうすれば絶対大丈夫や！

そして、帰宿後のミーティングではこう言いました。

おめえら、よく頑張った。ありがとう。失敗は成功の元、成功は次の成功の元じゃ！大会通じて、レースを通じて、もっと進化せえ～～！進化を止めたらあかんでえ。まだ24分の16になっただけじゃ！予選上がっただけで屁の突っ張りにもならんわあ。ここで満足したら必ず落とし穴が待ってるから。(現にインハイでは待ってました)ここで落とし穴にはまったら一生後悔するでえ。とにかく進化してみい。24日の決勝でゴールするまで納得せえ～へん！

さて、明日は何をしようか？それはもちろん・・・秘密の練習です。鉄のカーテンで覆います。(笑) 知らんけどな。

《今日の一言》30分で読める文章は30分では書けない。5分で聴ける曲は5分で作れない。3分で食べれるものは3分で作れない。もちろん3分で終わるボートも3分の練習では不可能。つまりどんなものでも一瞬では出来ないことを忘れてはいけない。



盛り上がってます

神頼みは必須!



予選突破したら此处でしょ